

令和2年度棚田地域振興活動加算に係る北海道中山間地域等直接支払制度検討会による確認・意見聴取について

資料3

市町村名：岩見沢市（栗沢棚田）

集落協定名：最上集落協定

R2検討会における意見等		意見等に対する回答・対応
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> 各集落や協議会の地域課題が分からないので、作成された目標・計画が妥当なのか、目標設定の数量が妥当なのか等、判断が難しいと思います。（今回設定されている目標が、課題の全部なのか、一部なのか等） それぞれ対象地区での課題に対応した対応策が記載されていると思うので、地域の現状についての記載が別にあっても良いかと思えます。（それぞれの集落の実情など、地域概要の記載等） 個々の活動が、新たに取り組むものなのか、これまで行われていたものをさらに強化、継続するものなのか、既存の事業であれば現状と事業後の比較を示すなど、成果が見える形で示してください。 最上地区で栽培される米の特徴は（平野部と比べて）何ですか。 取り組みによって、労力削減量、作物の品質、収量の見込みはどのように変化しますか。 集落機能強化に関して、定量的な目標設定となっていません。 	<p>加算費用で対応できる範囲で集落の現状改善、向上のために目標を設定しております。</p> <p>最上地区は山間部の豪雪地帯で、農業者も高齢となり農地（棚田）の維持・管理費にも苦慮しているが、地域の若い世代が今後の棚田維持を図っていきます。</p> <p>最上地区の活動は新たに行うものになります。</p> <p>最上地区で栽培される米の特徴として、平野部と比べ低たんぱく米、良食味米であり、生産の維持をしております。</p> <p>畦塗により、品質や収量の向上を図る。オオカミの尿設置は、電気牧柵と比べ取組に係る労働力も削減され、鳥獣被害を減らすことにより収量増加（鳥獣被害による減収を防ぐ）を図ります。</p> <p>定量的目標（月1回以上の訪問、安否確認等）を記載しました。</p>
ア※1	<ul style="list-style-type: none"> 2,500mの施工を5年でどのくらいずつ実施するのか記載があってもよいのではないのでしょうか。 	<p>施工について毎年2,500m程度と記載しました。</p>
イ※2	<ul style="list-style-type: none"> プランター設置や植栽実施により、棚田の価値をどのように生かすのか、保全するのかを具体的に記載すると良いと思えます。 オオカミの尿の設置：設置箇所は5年間ずっと同じなのか、設置箇所はどのように決めて、他に設置しなくてはならない箇所はないのかなどの全体的な概要があると良いかと思えます。 花植栽、地域見回りを通じてどのような棚田機能維持が見込めますか、たとえば5年、10年後の棚田保全への展望が期待されますか。 	<p>良好な景観の形成のためと記載しました。</p> <p>毎年、対象農用地(215,092㎡)の周りに設置します。</p> <p>花植栽は、良好な景観の形成に繋がります。地域見回りをする事により、高齢者宅の雑草を刈り、近隣棚田への病害虫の被害を抑制することに繋がります。</p>
ウ※3	<ul style="list-style-type: none"> 小学校が行う体験学習：棚田を認識してもらうというよりは、棚田の必要性や価値を理解し、次世代につながるような、地域の特徴ある農業として理解を深めると良いのではないのでしょうか。 	<p>認識をしてもらう→理解を深めてもらうに修正しました。</p>

※1:ア 棚田等の保全

※2:イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

※3:ウ 棚田を核とした棚田地域の振興

棚田地域振興活動加算に係る取組内容(全取組期間)

市町村名：岩見沢市（栗沢棚田）

集落協定名：最上集落協定

取組期間：令和2～6年度（5年間）

達成目標		目標に係る具体的な活動内容	活動に係る経費内訳	積算根拠	金額（円）	
ア 棚田等の保全	棚田の価値を生かした活動					
	集落機能強化					
	生産性向上	毎年畦塗施工長を2,500m程度実施	年345千円を上限として年2,500mの施工を行う 畦塗施工 2,500m×5年 （畦塗の施工により漏水防止、冷害危険期の水位確保による不稔の減少、除草剤効果化の向上による安定収量の確保）	畦塗施工委託費 120円/m×2,500m×5年 作業労賃（実測） 15千円/日×3日×5年	1,500,000 225,000	
イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮	棚田の価値を生かした活動	良好な景観の形成のため、毎年55個のプランターを設置	景観整備のため、毎年ミックスフラワーのプランター55個を道道茂世丑最上線歩道約380mに設置する	資材費（種子・培土） 一式39,678円/年×5年 作業労賃（播種・回収） 15千円/人×16人×5年 管理費 70円/個×55個×62日×5年	198,390 1,200,000 1,193,500	
			圃場での320㎡のミックスフラワー植栽実施	景観整備のため、春木氏圃場に毎年ミックスフラワーの植栽を実施する	資材費（種子） 一式18,398円/年×5年 作業労賃（設置・管理） 15千円/人×12人×5年 借地料 5千円/年×5年	91,990 900,000 25,000
				集落機能強化	独居世帯及び75歳以上の高齢者世帯を対象に地域見回り隊（民生委員及び集落が連携）への支援（月1回以上の訪問、安否確認等）	助成金 最上、由良地域にある地域見回り隊と集落が連携体制を構築し、地区内の独居世帯及び75歳以上の高齢者世帯（最上：2世帯、由良2世帯）を対象に月1回以上の訪問活動を実施し、安全・安心を確認する
	助成金					423,000
	生産性向上	人や自然に影響を与えず、シカを農作物に近づけないよう対象農地にオオカミの尿を548か所に毎年設置する	人及び自然に影響を与えず、鹿を農作物に近づけない効果があるオオカミの尿を地区内の548か所に設置することで、農作物の食害・倒伏等の被害による収量減が軽減される	資材費 一式449,844円/年×5年 作業労賃（管理） 100円/箇所×548箇所×5年	2,249,220 274,000	
			ウ 棚田棚田地域の核とした	棚田の価値を生かした活動	年2回の体験学習への協力により、延べ100人/5年の生徒に棚田の理解を深めてもらう	栗沢小学校が行う体験学習に集落として協力し、当日の農作業等の説明・作業補助を行い、合わせて米の内容を記した参考図書の配布を行うことで、参加する生徒に棚田についての理解を深める。（体験学習の回数：2回/年、参加生徒数：延べ20人/年）
集落機能強化						
生産性向上						
合 計					10,754,600	
<参考：棚田地域振興活動加算交付金額>				2,150,920 円/年×5年＝	10,754,600	

	R2検討会における意見等	意見等に対する回答・対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・茂世丑地区で栽培される米の特徴は（平野部と比べて）何ですか。 ・各集落や協議会の地域課題が分からないので、作成された目標・計画が妥当なのか、目標設定の数量が妥当なのか等、判断が難しいと思います。（今回設定されている目標が、課題の全部なのか、一部なのか等） ・それぞれ対象地区での課題に対応した対応策が記載されていると思うので、地域の現状についての記載が別にあっても良いかと思えます。（それぞれの集落の実情など、地域概要の記載等） ・棚田の価値を活かした活動、集落機能強化に関して定量的な目標設定となっていない。 	<p>茂世丑地区で栽培される米の特徴として、平野部と比べ低たんぱく米、良食味米であり、生産の維持をしております。</p> <p>加算費用で対応できる範囲で集落の現状改善、向上のために目標を設定しております。</p> <p>茂世丑地区は山間部の豪雪地帯で、農業者も高齢となり農地（棚田）の維持・管理費にも苦慮しているが、地域の若い世代が今後の棚田維持を図っていきます。</p> <p>定量的目標を記載しました。</p>
<p>ア ※1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーンピッカー、トレンチャーの購入： 生産量の増加、品質改善が必要な圃場がどのくらいあり、今回対象としている整備（面積）はどのくらいなのかが分かると良いと思います。 ・法面の点検など： 現状の点検活動者の人数や点検の頻度が分からないので、なぜ20人ほど必要なのかが分かると良いです。（20人増員することによって現在の対象エリアを補完できて、活動者の負担軽減や効率的な点検の実施となる等） ・ストーンピッカーはどちらかというと、棚田ではなく平地の農地で機能を発揮します。これらが棚田の生産性向上にどのようにつながるのか教えていただきたい。 	<p>目標と対象面積を記載しました。</p> <p>20人増員することにより対象エリアを補完でき、活動者の負担軽減と大規模破損個所の防止し、棚田該当地の保全を図ります。</p> <p>本州の狭小で極端な不整形な棚田のイメージではなく、北海道の棚田は面積が広くほぼ整形なため、ストーンピッカーを入れても、本来の機能を発揮できます。</p>
<p>イ ※2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「花壇の設置」は工程表で「年間1000鉢」の花植作業を実施することが読み取れるが、新規の活動なのか、現在実施している活動なのか、既存の場合、活動完了時と現在の比較など、成果がわかりやすい形で示してほしいです。 ・花壇の設置： 花植えが必要な箇所は、250㎡だけなのか。他にあるならば、対象エリア〇㎡のうち、今年度の計画では250㎡の花植えを5年間実施するなどとするか良いかと思えます。 ・取り組みのよって、労力削減量、作物の品質、収量の見込みはどのように変化しますか。 	<p>今までの250㎡に1,000鉢/年の花植えを、300㎡に1,500鉢/年に拡大します。参加人数は平均20名前半から30名に増やします。</p> <p>現状と目標を記載しました。</p>
<p>イ ※2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電牧の維持・設置： 全体的にどのくらい必要で、今回は〇㎡増やすなどの数字が必要ではないでしょうか。 	<p>電柵の設置・維持により、鳥獣からの農作物被害減らし、収量増加と品質向上を図ります。</p> <p>現状と目標を記載しました。</p>
<p>ウ ※3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所の活用など： 活動内容と経費内訳の項目が合っていないのではないのでしょうか。（駐車場の整備のところにパンフレットの作成となっている） 地元農産物の発送について、個数の設定が必要ではないのでしょうか。 パンフレットの発行については、発行部数、設置場所の数、どのように活用するのかが記載が必要ではないのでしょうか。 ・棚田を核とした棚田地域の振興に関して、定量的な目標設定となっていない。 	<p>経費項目について、整合性をとりました。</p> <p>農産物の発送個数、パンフレットの発行部数を記載しました。</p> <p>定量的目標を記載しました。</p>

※1:ア 棚田等の保全
 ※2:イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮
 ※3:ウ 棚田を核とした棚田地域の振興

棚田地域振興活動加算に係る取組内容(全取組期間)

市町村名：岩見沢市（栗沢棚田）

集落協定名：中山間茂世丑集落

取組期間：令和2～6年度（5年間）

達成目標		目標に係る具体的な活動内容	活動に係る経費内訳	積算根拠	金額（円）	
ア 棚田等の保全	棚田の価値を生かした活動					
	集落機能強化					
	生産性向上	ストーンピッカー(2台1組)を導入して、石による機械破損の防止を目的として年2~3haの実施をして、圃場整備を行い耕作条件を改善し、生産量の増加、品質向上を図る 最終年度までに13ha完了	個々で圃場整備を行っていた農地に関して、共同機械(ストーンピッカー)2台1組を導入して、新たに13haの圃場整備を実施することで耕作条件を改善し、生産量の増加、品質改善を図る	機械購入費 メンテナンス料	445千円/年×5年(5年分割) 1式82,975円×5年(5年分割)	2,225,000 414,875
		個々で排水対策を行っていた農地に関して、トレンチャー1台を導入して年2~3ha施工実施することで、耕作条件を改善し、作業効率向上及び収量増加、品質向上を図り茂世丑米の生産に寄与する 最終年度までに13ha完了	個々で排水対策を行っていた農地に関して、共同機械(トレンチャー)を1台導入して新たに13haの排水改善を共同で実施することで耕作条件を改善し、作業効率及び収量増加、品質向上を図る	機械購入費 メンテナンス料	68千円/年×5年(5年分割) 1式82,975円×5年(5年分割)	340,000 414,875
		個人活動費分では対応出来ない緊急を要する改修工事、棚田に係る共同使用の水路などの改修工事を完了するために20人増員することによって対象エリアを補完し、活動者の負担軽減と大規模破損箇所の防止をして、棚田該当地域保全を図り棚田からの良質米生産を図る(共同活動分)	従来から行っている農用地、畦畔、用排水路等の点検に加え、破損箇所の復旧、日常的な管理活動を定期的実施するため点検活動者を20人増員する 増員後は、破損箇所復旧の体制づくりのため、災害時の活動者間の連絡体制や迅速な資材購入手法等検討を行う	作業労賃	2,300円/人×20人×5年	230,000
		協定対象地所有者による該当地の法面点検、水路、農道の管理、草刈り作業に加え降雨後の現地確認作業を実施して、速やかに改修を行うことで農地保全を図る(個人活動分)	従来の共同取組活動で行ってきた法面の点検、水路・農道の管理、草刈り作業に加え、降雨後の現地確認作業を新たに実施し、速やかに改修を行うことで農地の保全を図る	圃場等改修委託費	6,533円/㎡×310,695㎡×5年	10,150,000
イ 棚田等の保全を通じた多面的な振興	棚田の価値を生かした活動	地域景観保持のために年1回花壇(約250㎡)の花壇作業を実施してきたが、更に花鉢数1,500鉢、面積を300㎡、参加人数を30名と拡大する。その後の除草作業等の委託作業を地元老人クラブにお願いする	資材費(花苗)	1,500鉢/年 一式80千円/年×5年	400,000	
			資材費(肥料)	一式6千円/年×5年	30,000	
			機械借上費	一式18千円/年×5年	90,000	
			作業労賃(花植)	2,900円/人×30人×5年	435,000	
			管理作業委託費	42千円/年×5年	210,000	
	集落機能強化					
生産性向上	現状地域一円を囲み電牧設置をしているが、道路、河川などで設置不可部分から鹿の侵入があり、被害があるので、更に部分的に電牧柵の設置をする。また、維持管理の徹底を図り、鳥獣害から作物を守り収量増加、品質向上を図る 現状：13,630㎡ 目標：最終年度までに2,000㎡延長する	電牧柵の設置箇所を増やしその維持管理をする 鳥獣害から作物を守り、収量増加を図る	資材費(電牧)	45,500円/年(上限)×5年	227,500	
			資材費(除草剤)	2,275円/缶×20缶×5年	227,500	
ウ 棚田を核とした棚田地域の振興	棚田の価値を生かした活動	町会運営の茂世丑直売所に棚田啓蒙看板2基を設置し、来訪者の棚田への理解を深めるとともに、現場駐車場整備(砂利敷き250㎡)を行い来客者の利便性を高める	資材費(看板)	一式40千円/回×1回	40,000	
			資材費(砂利)	一式10千円/回×2回	20,000	
	集落機能強化	町会運営の茂世丑直売所機能強化を目的として茂世丑出身者が集う(札幌茂世丑会)の交流の中で、茂世丑発信地域情報をまとめたパンフレット発行100部(直売所内にも展示、配布)及び、直売所を活用して地元農産物の発送(年1回、50個)の実施をしてリピーターを増やし定期的な観光人口の増加を図る	茂世丑町会が所有する既存の直売所を活用し、棚田啓蒙看板を設置して棚田への理解を深めてもらい、直売所駐車場整備を行い来客者の利便性を高める。 茂世丑出身者が集う「札幌茂世丑会」等の交流の中で、茂世丑発信のパンフレット発行及び、地元農産物の発送等年1回実施	資材費(パンフレット)	一式4千円/年×5年	20,000
				資材費(農産物)	一式12千円/年×5年	60,000
生産性向上						
合 計					15,534,750	
<参考：棚田地域振興活動加算交付金額>			3,106,950 円/年×5年=		15,534,750	

R2検討会における意見等		意見等に対する回答・対応
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> 各集落や協議会の地域課題が分からないので、作成された目標・計画が妥当なのか、目標設定の数量が妥当なのか等、判断が難しいと思います。（今回設定されている目標が、課題の全部なのか、一部なのか等） それぞれ対象地区での課題に対応した対応策が記載されていると思うので、地域の現状についての記載が別にあっても良いかと思います。（それぞれの集落の実情など、地域概要の記載等） 上幌地区栽培される米の特徴は（平野部と比べて）何ですか。 	<p>加算費用で対応できる範囲で集落の現状改善、向上のために目標を設定しております。</p> <p>上幌地区は山間部の豪雪地帯で、農業者も高齢となり農地（棚田）の維持・管理費にも苦慮しているが、地域の若い世代、農業生産法人が今後の棚田維持を図っていきます。</p> <p>上幌地区で栽培される米の特徴として、平野部と比べ低たんぱく米、良食味米であり、生産の維持をしております。</p> <p>定量的目標を記載しました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮、および、棚田を核とした棚田地域の振興に関する定量的な目標設定と定量的な目標説明がないです。 個々の活動が、新たに取り組むものなのか、これまで行われていたものをさらに強化、継続するものなのか、既存の事業であれば現状と事業後の比較を示すなど、成果が見える形で示してほしいです。 棚田の価値を活かした活動、集落機能強化に関して定量的な目標設定となっていません。 	<p>現状及び目標を記載しました。</p> <p>定量的目標を記載しました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 集落地域の清掃： 関わる人を増やす目的もあるならば、最初から体制の構築は難しいと思うので、参加者人数の目標を入れると良いのではないですか。 機材の導入など： 自動操舵装置の補助、ドローンの導入についても作業エリアの目標面積が必要ではないですか。 取り組みのよって、労力削減量、作物の品質、収量の見込みはどのように変化しますか。 	<p>現況と参加人数の目標を記載しました。</p> <p>目標を記載しました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 自動操舵装置はどちらかというと、棚田ではなく平地の農地で機能を発揮します。これらが棚田の生産性向上にどのようにつながるのか教えていただきたい。 	<p>ドローン等を導入することにより、防除の作業効率が向上し、労力の削減につながり、融雪剤散布機により、早期の融雪作業を進め乾田化により肥効を高め、生産性向上を図ります。</p> <p>本州の狭小で極端な不整形な棚田のイメージではなく、北海道の棚田は面積が広くほぼ整形なため、自動操舵装置を入れても、本来の機能を発揮できます。</p>
※1	<ul style="list-style-type: none"> 自動操舵装置はどちらかというと、棚田ではなく平地の農地で機能を発揮します。これらが棚田の生産性向上にどのようにつながるのか教えていただきたい。 	<p>定量的目標を記載しました。</p>
※2	<ul style="list-style-type: none"> 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮に関して、定量的な目標設定となっていません。 	<p>定量的目標を記載しました。</p>
※3	<ul style="list-style-type: none"> 棚田を核とした棚田地域の振興に関して、定量的な目標設定となっていません。 	<p>定量的目標を記載しました。</p>

※1:ア 棚田等の保全

※2:イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

※3:ウ 棚田を核とした棚田地域の振興

棚田地域振興活動加算に係る取組内容(全取組期間)

市町村名：岩見沢市（栗沢棚田）

集落協定名：上幌集落協定

取組期間：令和2～6年度（5年間）

達成目標		目標に係る具体的な活動内容	活動に係る経費内訳	積算根拠	金額（円）	
ア 棚田等の保全	棚田の価値を生かした活動					
	集落機能強化	集落地域の清掃（ゴミ拾い） 現況では老人クラブに委託していた清掃作業であるが会員数減少と共に困難さを感じていた。地域の美化活動計画は地域全世帯の活動と位置づけ親と子の会・老人クラブとの合同参加とした。広い世代の参加による交流の場を設けることで集落活動を更に強化させる。年2回15名→35名参加	老人クラブ、町会、親と子の会など地域内の団体と環境美化に係る連携体制を構築し、集落内の基幹道路を3班体制で春・秋の2回清掃活動を行い、棚田の景観を保持する			
	生産性向上	自動操舵装置の補助 アシスト付き田植え機導入の補助（未装備機械との差額の1/2）により田植え作業における補助員等の労働作業の軽減と効率向上を計る。トラクター搭載機1台を導入（半額助成）により導入済の作業機（モミサブロウ）の均一した施工作業と労働負担軽減をする 5ha→15ha	自動操舵装置3台の導入により、作業効率の向上で生み出された余剰労働力を生かし、作業進度を早め、早期作業の着手と均一した圃場条件を作り、生育期間を十分確保することで生産性の向上を図る	機械導入費 （上限100万円助成）	トリンプル GFX-750 1,000千円/台×3台	3,000,000
			田植え機5台の導入により当該農地所有者における条件不利地の田植作業の労働力負担の軽減を図る	機械導入費（50%補助）	アシスト機能装置GPS田植機 600千円/台×1/2×5台	1,500,000
			肥料散布機2台の導入により均一化した施肥作業を行い、安定して均一化された作物の生産を図る	機械導入費（50%補助）	アシスト機能装置肥料散布機 300千円/台×1/2×2台	300,000
		融雪剤散布機1台を導入により春先の融雪を促進し作業計画を安定的に進める 30ha→50ha	個々の作業機を利用し融雪作業を行っていたが、共同の専用機を1台導入し、新たに20haを共同作業で実施し、農地の早期融雪作業を進め、乾田化により肥効を高め、生産性向上を図る 共同作業30ha→50ha	機械導入費	融雪剤散布機導入HC5010 2,700千円/台×1台	2,700,000
		農業用散布用ドローン1台を導入により農業散布の作業能力が向上し散布面積が拡大することにより適期防除と一斉防除効果が得られることにより散布経費の削減が図られる 30ha→100ha	現況は、自走防除カーの作業困難圃場を中心に稼働地域協定者より広域で稼働することで、防除効果を上げた 除草剤散布も併せて委託希望により増車 目標30ha→100ha	機械導入費 機械導入費 導入償却資産税他	AGRAS T-20本体 1,600千円/台×1台 AGRAS T-20付属品 1,400千円/台×1台 AGRAS T-20 一式30,190円/年×5年	1,600,000 1,400,000 150,950
	ドローン1台を導入し、作物の生育状況を測定し、生産者へデータを提供することで、土壌状態及び作物の状況を把握することができ、生産性の向上を図る アシスト施肥機と併用することで、より均一作物生産が可能となり、農産物を地区ブランドとして販売の増につなげる		機械導入費 機械導入費	P4 MULTI SPECTRAL本体 935千円/台×1台 ライセンス4年分 200千円/年×4年	935,000 800,000	
	わ た ら し の 保 全 の 維 持 ・ 発 揮 の 多 面 に	棚田の価値を生かした活動	雑木を処理 不要雑木が繁茂し景観を損なわれるばかりではなく、交通の視界不良を起こしたり不法投棄の温床に成りかねないため雑木の処理を未然に防ぐ。更に啓発看板を設置しポイ捨て抑制し環境を維持する 令和6年までに周辺幹線農道10kmの雑木処理啓発看板設置3カ所	委託費 資材費（看板）	一式570千円/年×5年 一式50千円/3基	2,850,000 150,000
		集落機能強化				
ウ 棚田を核とした棚田地域の振興	棚田の価値を生かした活動	統一ブランド袋の作成 令和6年までに地域で栽培される良食味米を統一した地域ブランド（かもみの里）の米袋5,000枚を作成しブランド知名度の向上と共に販売拡大を進め所得の向上と栽培技術向上を目指す。ブランド米袋10kg5,000枚作成 販売数量5000kg	資材費	”かもみの里”10kg米紙袋 100円×6,000枚	600,000	
			資材費	”かもみの里”5kg米紙袋 70円×2,000枚	140,000	
	集落機能強化					
	生産性向上					
合 計					16,125,950	
<参考：棚田地域振興活動加算交付金額>			3,225,190 円/年×5年＝		16,125,950	

R2検討会における意見等		意見等に対する回答・対応
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の活動が、新たに取り組むものなのか、これまで行われていたものをさらに強化、継続するものなのか、既存の事業であれば現状と事業後の比較を示すなど、成果が見える形で示してください。 ・宮村地区の農業栽培の特徴は(平野部と比べて)何ですか。 	<p>加算費用で対応できる範囲で集落の現状改善、向上のために目標を設定しております。</p> <p>宮村地区で栽培される米の特徴として、平野部と比べ低たんぱく米、良食味米であり、生産の維持をしております。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・各集落や協議会の地域課題が分からないので、作成された目標・計画が妥当なのか、目標設定の数量が妥当なのか等、判断が難しいと思います。(今回設定されている目標が、課題の全部なのか、一部なのか等) ・それぞれ対象地区での課題に対応した対応策が記載されていると思うので、地域の現状についての記載が別にあっても良いかと思ひます。(それぞれの集落の実情など、地域概要の記載等) ・集落機能強化に関して、定量的な目標設定となっていません。 	<p>集落の現状改善、向上のために目標を設定しております。</p> <p>宮村地区は山間部の豪雪地帯で、農業者も高齢となり維持・管理費にも苦慮しているが、地域の若い世代が今後の棚田維持を図っていきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・高性能田植え機2台の根拠の記載が必要ではないですか。2台でどのくらいの労働力の補完がありますか。 ・高機能田植え機はどちらかというと、棚田ではなく平地の農地で機能を発揮します。これらが棚田の生産性向上にどのようにつながるのか教えていただきたい。 	<p>定量的目標を記載しました。</p> <p>既存田植え機より、高性能な機械を導入することにより、苗の装填や移動速度が向上し、労働力の補完、削減につながります。目標では作業時間を現状から10%以上削減することを目指します。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・害獣被害の状況とこれまでの箱罾設置状況の記載があつて目標を入れた方が良いのではないですか。(これまでは箱罾の設置はなかったのですか) ・電牧柵の維持・設置： 毎年4,500mということは、対象となる箇所は、その5倍と考えて良いですか。これまでに設置していた場合は、現状についても記載が必要ではないですか。 	<p>本州の狭小で極端な不整形な棚田のイメージではなく、北海道の棚田は面積が広くほぼ整形なため、高性能田植え機を入れても、本来の機能を発揮できます。</p> <p>今までも箱罾設置を行っていたが、新たに4か所設置し、有害鳥獣の駆除を図ります。</p> <p>現状について記載しました。</p>
ウ ※3	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家修繕などの対策は集落機能強化に属しませんか。 ・棚田を核とした棚田地域の振興に関して、定量的な目標設定となっていません。 ・空き家の修繕、活用方法 空き家の数は何軒あつて、今回の計画で何軒対処するのか記載が必要ではないか。空き家の活用検討を5年の間でどのように検討するのか等、具体的に1年目は検討、2年目は試行などの取組み内容の記載が必要ではないですか。 	<p>集落機能強化の項目へ移行しました。</p> <p>目標を記載しました。</p> <p>現在の空き家件数及び対応数の記載しました。</p> <p>活用についての検討会を毎年実施します。</p>

※1:ア 棚田等の保全

※2:イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

※3:ウ 棚田を核とした棚田地域の振興

棚田地域振興活動加算に係る取組内容(全取組期間)

市町村名：岩見沢市（栗沢棚田）

集落協定名：宮村集落協定

取組期間：令和2～6年度（5年間）

達成目標		目標に係る具体的な活動内容	活動に係る経費内訳	積算根拠	金額（円）	
ア 棚田等の保全	棚田の価値を生かした活動	令和6年までに協定内農地の集約を86%から92%に集約する	報酬（増加分）	役員手当5千円/人×4人×5年	100,000	
			報酬（増加分）	担い手担当手当 10千円×4人×5年	200,000	
	集落機能強化					
	生産性向上	令和6年度までに高機能田植え機2台を導入し、作業効率を上げ、労働力の10%以上削減を目指す 防除機械を1台新規で導入し、防除の効率化を目指す	労働力の補完が図られる高性能機械を活用し、適期移植を行うことで品質向上を図る	機械導入費助成	8条直進アシスト田植機2台 500千円/台×2台	1,000,000
圃場等改修委託費				5千円/㎡×124,364㎡×5年	3,109,100	
イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮	棚田の価値を生かした活動	令和6年までに新たに箱畝を4か所に設置				
			排水路の草や雑木の整理	雑木整理を行って、法面雑地部分の畦畔率20%以上であり、日陰を解消する	作業労賃（雑木整理） 10千円/人×10人×5年	500,000
			現状婦人会に委託している集会場駐車場に花壇の設置について、子ども会など若い方達の参加を促す	集落内の婦人会に花苗の育苗、花壇作成、月1回の草刈り等の管理を委託し、町会役員が駐車場の草刈を行う	機械借上費 チェーンソー 5千円/台×10台×5年	250,000
	集落機能強化	町会及び民生委員と連携し、独居、高齢者世帯の見守り支援として住宅周りの雑草刈り（年2～3回程度）や除雪などの実施	協定参加者を中心に地域の町内会と集落が連携し見守り支援体制を構築し、地区内の独居世帯（3世帯）毎月1回以上生活環境の聞き取りを行い、独居世帯支援として、草刈・除雪作業を行う	作業労賃（草刈）	5千円/人×9人×5年	225,000
				作業労賃（除雪）	予算内で支払い	430,000
	生産性向上	現状電気柵4,500mを設置し管理しているが、冬季は回収し資材の維持を行う	電柵を既存の畑を含め毎年4,500m設置することで、鹿による農作物の食害等の被害による収量減が軽減される	資材費（ワイヤー等）	一式50千円/年×5年	250,000
ウ 棚田を核とした棚田地域の振興	棚田の価値を生かした活動	令和6年までに空き家の修繕の一部支援などを行い、現在ある空き家4軒について、年1回程度の関係者（町会、市）と利用希望者の発掘など活用方法の検討する	町会が中心となって雪による空き家の倒壊を防ぐため屋根のペンキ塗り			
	集落機能強化		地域の生産者の生産意欲を高めるため、町会が中心となって持ち主に空き家の維持・解体の確認と活用方法について検討をすすめる	会議開催事務費	一式30,820円/年×5年	154,100
	生産性向上					
合 計					6,064,100	
<参考：棚田地域振興活動加算交付金額>					1,243,640 円/年×5年＝	6,218,200

市町村名：岩見沢市（栗沢棚田）

集落協定名：万美集落協定

R2検討会における意見等		意見等に対する回答・対応
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> 各集落や協議会の地域課題が分からないので、作成された目標・計画が妥当なのか、目標設定の数量が妥当なのか等、判断が難しいと思います。（今回設定されている目標が、課題の全部なのか、一部なのか等） それぞれ対象地区での課題に対応した対応策が記載されていると思うので、地域の現状についての記載が別にあっても良いかと思います。（それぞれの集落の実情など、地域概要の記載等） 岩見沢の棚田米の特徴は（平野部と比べて）何ですか。 	<p>加算費用で対応できる範囲で集落の現状改善、向上のために目標を設定しております。</p> <p>万美地区は山間部の豪雪地帯で、農業者も高齢となり農地（棚田）の維持・管理費にも苦慮しているが、地域の農業生産法人が今後の棚田維持を図っていきます。</p> <p>万美地区で栽培される米の特徴として、平野部と比べ低たんぱく米、良食味米であり、生産の維持をしております。</p>
ア※1	<ul style="list-style-type: none"> 法面の点検など：記載されている積算根拠の中の19,709㎡は、獣害防止柵修繕面積のみか、または、点検箇所面積か等、内容が分かりにくいです。 	対象農用地の面積です。
イ※2	<ul style="list-style-type: none"> 棚田の地域は作物栽培上有効土地面積が少ない傾向があること、日照時間が平地と比べ限られているので、地勢上日照不足、寒暖の差は大きいとみられることから、日照を妨げる樹木は栽培に不利にならないですか。 樹木の管理についても棚田地域は人手が少ない傾向があり農作業も平地より多いと言われているおり管理に困難を伴わないですか。 畦の整備、管理の方が美観も作業性も向上しないですか。 「桜の木の植栽」は、それぞれ現状の数字との比較を明記し、成果が見える形で示してください。 	<p>棚田への日照影響をさせない場所への植栽を行います。</p> <p>農業生産法人と連携し、維持管理を行っていきます。</p> <p>畦の整備・管理はもちろんですが、現段階では桜の植栽による良好な景観形成を考えております。</p> <p>現状と目標を記載しました。</p>
ウ※3	<ul style="list-style-type: none"> 稲刈りツアー30人および保育園の田植え体験について、長く続く活動となるよう工夫をお願いします。 地域イベントの規模や集客数の目標人数等の記載が必要ではないですか。 「園児を対象とした田植え、稲刈りツアー」、「紅葉祭」は、それぞれ現状の数字との比較を明記し、成果が見える形で示してください。 	<p>教育大学等と連携し参加者の確保等、長く続けられるよう工夫していきたく思います。</p> <p>集客数の現況と目標を記載しました。</p> <p>集客数の現況と目標を記載しました。</p>

※1:ア 棚田等の保全

※2:イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

※3:ウ 棚田を核とした棚田地域の振興

棚田地域振興活動加算に係る取組内容(全取組期間)

市町村名：岩見沢市（栗沢棚田）

集落協定名：万美集落協定

取組期間：令和2～6年度（5年間）

達成目標		目標に係る具体的な活動内容	活動に係る経費内訳	積算根拠	金額（円）	
ア 棚田等の保全	棚田の価値を生かした活動					
	集落機能強化					
	生産性向上	集落が農業生産法人と調整し、農作業の作業受委託を増加させ、耕作放棄率について現状の0%を維持する	集落が農業生産法人（毛陽農産）と調整し、農作業の内、防除・収穫・調製作業の受委託を205aから275haに増加することで、労力や農機具の負担を軽減しながら今後も営農を継続することで耕作放棄地の発生を防止する			
		従来の法面の点検、水路・農道の管理、草刈り等の実施に加え、対象農用地19,709㎡の獣害防止柵の現地確認作業を新たに実施し、破損箇所などを速やかに修繕することにより、農地の保全を図る	従来の共同取組活動で行ってきた法面の点検、水路・農道の管理、草刈り作業に加え、獣害防止柵の現地確認作業を新たに実施し、破損箇所などを速やかに修繕することで農地の保全を図る	獣害防止柵修繕費	5千円/㎡×19,709㎡×5年	492,725
イに 棚田等の機能の保全を維持・発揮	棚田の価値を生かした活動	花壇の維持と令和6年までに新たに桜の木20本を植栽し、良好な景観を形成する	棚田を含めた地域景観向上のため、協定農地につながる農道沿いで桜の木20本を定植、管理する	資材費 苗木2千円/本×5本×5年	50,000	
	集落機能強化			植付管理費 一式10千円/年×5年	50,000	
	生産性向上					
	棚田の価値を生かした活動					
ウ 棚田を核とした棚田地域の振興	集落機能強化	令和6年度までに札幌市の保育園を対象とした田植え・稲刈りツアーを開催し、30人の参加者を確保	集落で実施する札幌市の保育園を対象とした田植え、稲刈りツアーについて、会場となる水田の春作業（播種・田植え）及びイベント企画等を岩見沢教育大学と連携し開催し、稲刈り体験をしたもち米を使って保育園で園児による餅つきを行う農業体験の開催回数：2回/年、参加者：30人/回	作業労賃（田植）	5千円/人×8人×5年	200,000
		令和6年までに万美集落と毛陽集落、地域町会が連携して紅葉祭りを開催し、地域への来客数増加を目指す（集客人数現況1,000人 目標1,800人）	地域総出による農産物の直売や都市と農村との交流イベントを開催することで、他集落との連携を図り栗沢棚田（万美集落）の直売に参加することで、地域への来客数の増加を目指す	作業労賃（直売） 資材費	8千円/人×4人×5年 一式6,545円/年×5年	160,000 32,725
	生産性向上					
	合計					985,450
<参考：棚田地域振興活動加算交付金額>			197,090 円/年×5年＝		985,450	

R2検討会における意見等		意見等に対する回答・対応
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ・目標は「アウトプット」的に記されているが、おむね「アウトカム」的な成果がわかる内容になっています。 ・棚田米(東川米)の特徴は何ですか。 	<p>「東川米」は大雪山系豊富な伏流水と健康な大地で生産されています。その中で棚田を形成する場所は伏流水の上流部に位置することからミネラル等の要素が豊富です。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・東川の棚田の特徴と生産物(米)の収量・品質に関連性はないですか。 	<p>現状においては棚田における水稻の作付面積が少なく、他圃場の水稻と混載収穫されるため、収量・品質の差異を分析できていません。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・棚田であることが野菜栽培にとって効果的であるという見方はないでしょうか。 	<p>棚田の場所によりますが、沢地帯においては高温による障害や異常干ばつの被害を受けずらい面がありますが鳥獣による被害が懸念される部分もあります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容達成目標において中山間農地の棚田であることの価値の特性表記が希薄です。 	<p>棚田を耕作する生産者と協議・検討を行い、棚田の特性に応じた活動を調査します。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・各集落や協議会の地域課題が分からないので、作成された目標・計画が妥当なのか、目標設定の数量が妥当なのか等、判断が難しいと思います。(今回設定されている目標が、課題の全部なのか、一部なのか等) ・それぞれ対象地区での課題に対応した対応策が記載されていると思うので、地域の現状についての記載が別にあっても良いかと思えます。(それぞれの集落の実情など、地域概要の記載等) 	<p>協議会の各集落の一部に棚田が点在しており、全集落に棚田が無いこともあり目標設定が難しいところです。</p>
ア※1	<ul style="list-style-type: none"> ・共同機械の導入について： ドローン購入後の機械操作などの研修は必要(費用の積算)ではないですか。 労働時間の削減時間(目標)が具体的に分かるようであれば記載してはどうでしょうか。 	<p>研修事業については協議会の自主活動として実施。 労働時間等の具体的な目標については未策定。</p>
イ※2	<ul style="list-style-type: none"> ・東川米の販売量を販売箇所を増やすだけで販売量が増えるのかな?と思えますし、もっと広報的に高品質米であることをアピールするのもいいのではと思いました。 	<p>輸出を含めた販売個所の増加を計画しており実現可能な数量と判断しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・点検活動について： 達成目標の中で、平成6年度となっているが元号が間違っています。 2人で点検する範囲が200mという理解で良いですか。 ・農村環境に配慮した家屋建築について： 新築で建築する家屋が対象ですか、現在ある家屋のリフォームイメージですか。 	<p>元号について、昨年修正漏れと思われる。「令和」へ修正します。 棚田の面積が少ないため、点検範囲が200mとなっています。</p> <p>新築をイメージしております。</p>
イ※2	<ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣の駆除では、捕獲後の処理が制限になると聞きます。地域ではどのように対応していますか。 	<p>町内の猟友会組織や清掃業者と連携して適切に処理を行う予定です。</p>
ウ※3	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントがたくさんあり、イベントごとに参加者数が異なります。関係者年二回の参加を数値目標とするだけで良いのかなと思えます。 	<p>「農産物の販売や地域の伝統芸能の披露等、都市と農村の交流イベントに構成員が年2回を目標に参加します。」に修正します。</p>

※1:ア 棚田等の保全

※2:イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

※3:ウ 棚田を核とした棚田地域の振興

棚田地域振興活動加算に係る取組内容(全取組期間)

市町村名：東川町（東川棚田）

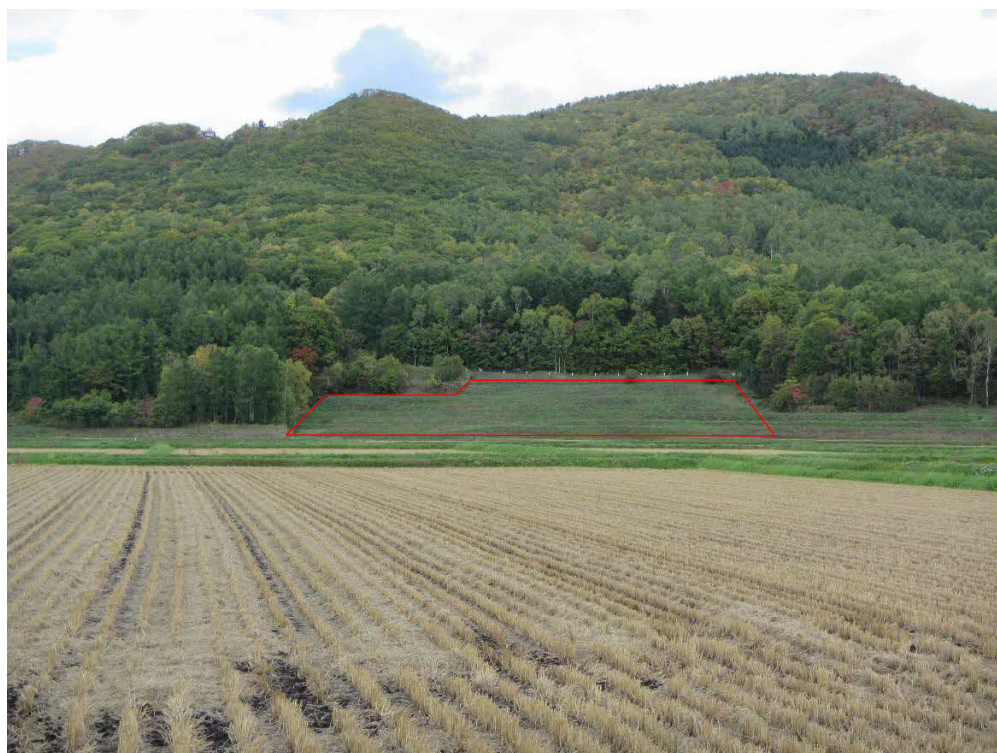
集落協定名：東川町中山間制度推進協議会

取組期間：令和2～6年度（5年間）

達成目標		目標に係る具体的な活動内容	活動に係る経費内訳	積算根拠	金額（円）
ア 棚田等の保全	棚田の価値を生かした活動				
	集落機能強化	<p>令和6年度までに東川棚田の新規就農者数を5人から8人とする。 *平成27年度からの累計</p> <p>研修生の研修活動支援活動 新規就農者を増加させるため、町内で就農を目指し研修を行う、又はこれから行う研修生3名に対し、農作業に必要な技術習得のため、実践研修を受講した者に対し、研修費の助成(定額)を行う。 研修作物：施設野菜(トマト) 研修内容：研修生を主体として定植から出荷まで独立就農に向けた実践的な研修(165坪ハウス×3棟) 選考：認定申請書、就農希望調書、健康状態、就農意欲、自己資金力等を基に総合的に判断</p>	研修活動支援費	<p>200,000円/年×1人×5年 *実践研修者1人当たり 研修期間最長2年 R2～3 1名 R4～5 1名 R6 1名</p>	1,000,000
	生産性向上	<p>共同機械の導入 共同機械としてドローンや草刈り機を導入し、個々で行っていた防除作業(20ha)や草刈り作業(延長30km)を共同で実施することで、病虫害の発生を未然に防止し、水稻の品質向上を図るとともに、農作業の効率化を図り、労働時間の削減に努める。</p>	共同機械導入費	<p>上限500,000円/年×1台×5年 *複数の共同利用申請が出る場合は傾斜配分 助成対象範囲：農地や農地周りを管理する共同利用機械 対象機械：ドローン2台、草刈機3台 他</p>	2,500,000
イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮	棚田の価値を生かした活動	<p>東川棚田地域内における点検活動者を38人から平成6年度までに40人に増員し、災害を未然に防ぐために点検活動を実施し、棚田等の機能に障害が発覚した場合、または災害により棚田等の機能に障害が発生した場合は、石積み等の工法を用いた復旧作業を実施する。</p> <p>畦畔等の再構築助成 農用地、畦畔、用排水路等の点検に加え、破損箇所を復旧、日常的な管理活動を定期的に行うため点検活動者を2人増員する。 破損が発覚した場合は速やかに復旧作業を実施する。 増員後は、破損箇所復旧の体制づくりのため、災害時の活動者間の連絡体制や迅速な資材購入手法等の検討を行う。</p> <p>東川町は、北海道最高峰の旭岳を有する大雪山の雄大な山並み、豊かな森林や田園風景といった地域資源が豊かな町である。棚田に点在する家屋が農村景観等になじむことにより、観光資源等として棚田の付加価値を高めることとなる。 そのような背景から農村景観に配慮した家屋として、屋根は山並みをイメージする形状と勾配、色は外壁と共に自然色を採用し、木材の利用や、一定以下の高さを保つことを目標としている。 については、棚田の付加価値を高めるために、協議会が主体となって、農家後継などの人材に対して、農家住宅として農村景観に配慮した家屋を建築するよう推進活動を行う。</p>	点検活動労賃	日額13,800円/人×2人×5年	138,000
			施工費	700円/m×200m×5年	700,000
			作業労賃	日額13,800円/人×8人×5年	552,000
			作業資材費	22,000円/一式×5年	110,000
				【一式の内訳】 スコップ 2,000円×6本 ヘルメット 1,500円×6個 軍手 500円×2束	
	協議会自主活動として実施				

イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮	集落機能強化	令和6年度までに棚田地域内の農業体験、自然体験等の教育活動の指導者を現状の2名から3名まで増員する。	未来を担う子ども達が、都市化にともない自然に接する機会を失っている。また、スーパースーパーが身近な存在となったことから、家庭菜園をする家庭も少なくなり収穫や植物の生育の喜びを味わえる家庭が減少しているため学校教育と連携し食育体験活動を実施する。 町内にある加工体験施設において農園で収穫された農産物の加工体験を新たに実施するため、指導者を現状の2名から3名に増員する。また、専門的知識を有する元普及センターの職員と指導員が連携し、幼児センターの幼児と東川小学校の生徒に対し、体験農園で栽培と収穫の実技指導を行いながら、指導技術の向上を図る。	指導員労賃	1,500円/時間×4時間×3人×3回×5年	270,000
				作業資材費	9,770円/一式×5年	48,850
イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮	生産性向上	令和6年度までに東川棚田における有害鳥獣の鹿の捕獲頭数を現状の79頭から90頭に目標設定し、棚田等の保全を図る。	鳥獣害被害対策 有害鳥獣捕獲者の人員確保対策として、銃猟免許取得助成、捕獲資材並びに駆除勝利用消耗品の購入助成、捕獲活動助成により、組織と活動の強化を図る。	鳥獣害対策協議会活動助成	150,000円/年×1組織×5年	750,000
				【内訳】		
				銃猟免許取得助成	取得費100,000円×助成率1/4×1名=25,000円/年	
				箱罟購入助成	箱罟代20,000円×5台×助成率1/4=25,000円/年	
				駆除活動助成	14,000/日×5日×3名×助成率1/2=105,000円/年 100,000円/年	
	令和6年度までに東川棚田におけるブランド米「東川米」の販売量を1,450tから1,500tに増加させる。	東川棚田におけるブランド米の販売箇所を町内外で新規に1箇所以上を増やし、販売量を1,450tから1,500tに増加させる。	協議会自主活動として実施			
ウ 棚田を核とした棚田地域の振興	棚田の価値を生かした活動					
	集落機能強化	農産物の販売や地域の伝統芸能の披露等、都市と農村の交流イベントに構成員が年2回参加し、各回1万人のイベント入場者を確保する。	都市と農村の交流・地域産品の消費拡大、経済活動の活性化を目的としたイベント（くらし楽しくフェスティバル）に参加し、イベント主催者との連携のもと、東川棚田の情報発信を行うことで、地域への来客数の増加を目指す。 なお、集落機能強化を図るには、農業者はもとより、非農業者の移住促進も重要となることから、協議会と町の移住担当部局と連携強化を図りながら東川棚田を始め、生活支援等の情報発信と相談窓口を開設する。	協議会自主活動として実施		
	生産性向上					
合 計						
<参考：棚田地域振興活動加算交付金額>					1,213,770 円/年×5年=	6,068,850

東川町中山間(棚田 遠景) 西3号北41番地



東川町中山間(棚田 近景) 西3号北41番地

